

米国金融政策（2025年12月FOMC）

3会合連続となる0.25%ptの追加利下げ

2025年12月11日

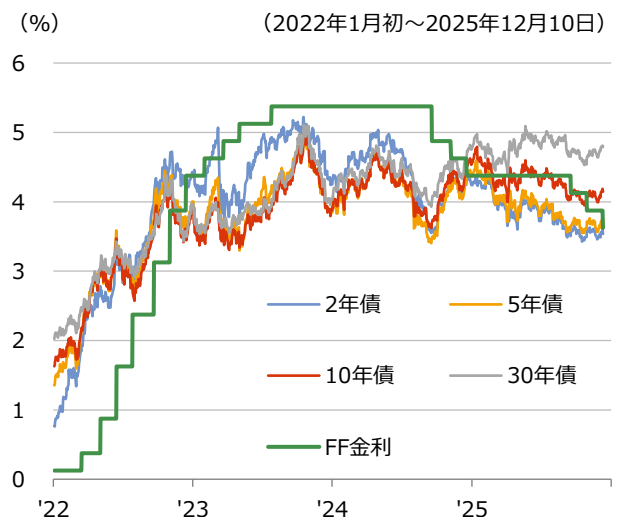
予防的利下げは今回をもって終了

FRB（米国連邦準備制度理事会）は12月9日～10日（現地）にFOMC（米国連邦公開市場委員会）を開催し、政策金利であるFF（フェデラル・ファンド）金利の誘導目標レンジを3.75～4.00%から3.50～3.75%へ引き下げることを決定しました。利下げは3会合連続となります。政策決定に際して、2名が利下げ見送りを求めて反対し、1名は0.50%ptの大幅利下げを求めて反対しました。

利下げは過去2回と同様、雇用下振れリスクの高まりと物価上振れリスクの低下を踏まえ、中立的な政策金利ヘシフトする「リスクマネジメント」対応と位置づけられます。パウエル議長が「経済がどのように進展するか見守るのに十分な位置にいる」と述べたことから、リスクマネジメントを目的とした予防的利下げは今回をもって終了したと考えられます。ただし、FOMC参加者の2026年末FF金利見通しは中央値で3.375%と前回9月の見通しと同じで、更なる利下げ余地を残しています。

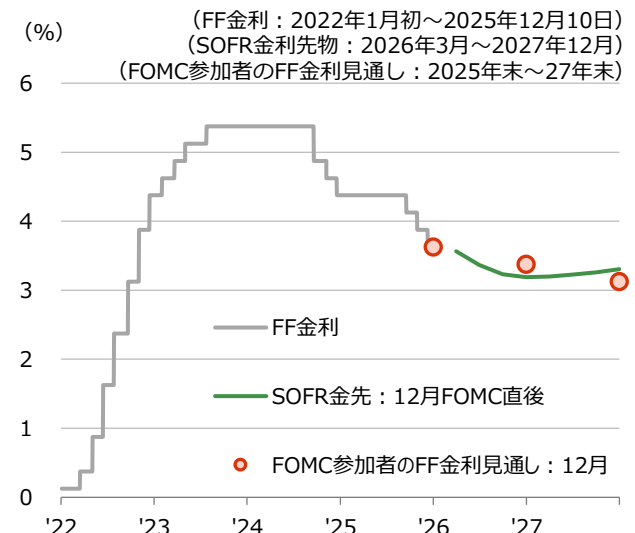
12月FOMCに先駆けて市場参加者の間ではタカ派的利下げになるとの見方が強まり、金利が上昇していました。もっとも、声明文で追加利下げの可能性は明確には排除されておらず、市場の事前想定ほどにタカ派的な決定ではありませんでした。政策発表後に、金利は短期を中心に低下し、米国株は反発しました。当面は雇用・物価を中心とする経済動向を確認しつつ、2026年5月に任期満了となるパウエル議長の後任人事が注目されます。

FF金利と米国債利回り



※FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値
(出所) ブルームバーグ

FF金利の実績と見通し



※FF金利は決定日ベースで誘導目標レンジの中心値
SOFRは担保付翌日物調達金利の略 (出所) FRB、ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management